



NEWS

2008 No.208

7月号

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

「エココンポ・オートパーツ(仮称)」でリサイクル部品の環境負荷低減

NGP・日通・日通商事が リターナブル梱包材を共同開発 地球環境保全に全力投球

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合は、日本通運株式会社・日通商事株式会社と共同で新しい梱包資材「エココンポ・オートパーツ(仮称)」を開発しました。自動車リサイクル部品の梱包材を繰り返し使える素材に切り替えることで、廃棄物の削減とCO₂排出削減に貢献します。NGP協同組合は全力で地球環境保全に取り組みます。

エココンポ・オートパーツ(仮称)は、まずドアやエンジン等の大型部品を対象に使うことを考えています。NGP協同組合は日本通運・日通商事とリサイクル部品の輸送効率向上についての方策を研究してきました。この成果の一つとして、リサイクル部品の梱包材を繰り返し使えるリターナブル資材に切り替えることにチャレンジします。

従来、リサイクル部品をお届けするために、ダンボールや木製パレット、緩衝材などを使ってその都度梱包してきました。修理工場の皆様には、リサイクル部品の受け取り後、これらの梱包資材を産業廃棄物とし

て処理をさせていただいておりましたが、エココンポではその処理が不要になります。折りたたんで保管しておいていただければ、日本通運のペリカン便がNGPの費用で回収にうかがいます。

素材はプラスチック製で、木や釘、工具を一切使わず梱包できるようにした専用資材(実用新案申請済:日通商事)です。梱包・開梱作業を容易にする専用設計を取り入れ、ドア・アッシーのような重量物も持ち上げずに格納でき、取り出しも簡単で、リサイクル部品を使っている現場での作業負担を軽減します。ワンタッチの折りたたみ

式ですので、片付けも容易です。エココンポの使用期間は概ね5年、無駄な資源の消費を減らし環境保全に努めます。

もともと自動車リサイクル部品は、自動車修理時のCO₂排出抑制につながる環境に優しいアイテムです。使い捨ての梱包材で廃棄物を増やすより、繰り返し使えるリターナブル資材に梱包材を切り替えることで、もう



組み立て・梱包作業を簡便化。取り外して折りたたむとペリカン便(宅配便)サイズになる

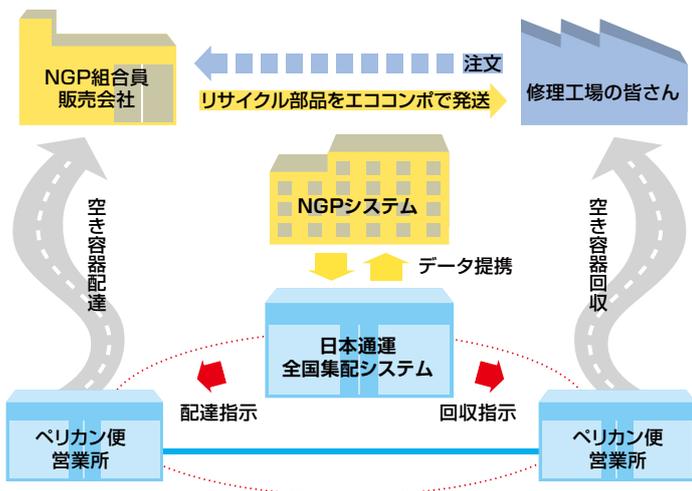
一段、環境負荷を減らす工夫をしようとしてNGP協同組合は考えました。

当面、ドアパネル用エココンポを使って、北関東支部・南関東支部のエリア内で試験的運用を行います。8月から9月にかけて取り組んで評価し、本格運用するためにさらに改善すべき点はあるのか、修理工場の皆さんが使いやすくなる工夫はないか、について検討を重ねる計画です。

青いプラスチックの梱包材が、エココンポの目印です。もし青い梱包材でお手元にドアなどが届きましたら、開封後、梱包材を一時保管してください。中1日おいて日本通運のペリカン便が梱包材の回収にうかがいます。また、販売元のNGP組合員がご意見をうかがいに皆様のところへお邪魔することも計画しています。エココンポについての率直な感想を聞かせてください。さらに工夫し、使い勝手を良くしていきたいと考えています。

リサイクル部品は地球環境に優しい修理用部品です。一般のお客様も環境に優しい修理を求めだすようになってきました。この中でリサイクル部品をさらに使い勝手の良いものにし、環境負荷を軽減することが、NGP協同組合の使命だと考えています。修理工場の皆様には重ねてご協力をお願い申し上げます。

エココンポ・オートパーツ(仮称)の発送回収フロー



リターナブル梱包材（仮称：エココンポ・オートパーツ）を自動車リサイクルフォーラムで披露 同業者からの関心も高く

NGP協同組合は6月6、7日に北海道札幌市の札幌コンベンションセンターで開かれた「自動車リサイクル環境フォーラム in 北海道」（下の記事参照）で、開発したエココンポ・オートパーツ（仮称）を展示しました。自動車リサイクル部品を取り扱っている同業者が多数集まる場所で公開し、どのような反応が出るか探りました。エココンポを見た人の関心は高く、使ってみたいという同業者も多数いました。エココンポは、リターナブル梱包資材で地球環境に優しい自動車リサイクル部品の魅力をさらに高めることにつながるからだと考えています。

現在、原油の国際価格が高騰し、それに伴うガソリン、軽油の燃料価格の値上がりでト

ラック輸送業者は厳しい経営状況にあります。この影響がリサイクル部品の事業者にも出ており、燃料価格ばかりでなく梱包資材などの価格も上昇しています。この中で、上昇するコストを押さえて自動車リサイクル部品の魅力を維持することは重要な課題になります。物流・輸送の合理化、効率化について、同業者間でも関心は高まっています。

今回のNGP協同組合の提案は、環境に優しいリターナブル資材の提案でしたが、さらに論議を深めながら物流・輸送の合理化にリサイクル部品業界を挙げて取り組むことができるようにしたいと考えています。将来的に共同輸送などが実現できれば、さらにCO₂削減に貢献することができます。この



リサイクルフォーラムでエココンポを展示、同業者からの関心を集めた

取組みの第2弾として、エンジンなどのお届けもリターナブル資材に切り替えることを検討しています。

ひとつひとつの小さな積み重ねになりますが、NGP協同組合は修理工場の皆様が取り組んでいる環境整備をリサイクル部品で支援できるよう研究、工夫を続けます。さまざまなアイデアを提供し、リサイクル部品業界をけん引していきたいと思っています。

リサイクル環境フォーラム in 北海道開く 洞爺湖サミットに照準を合わせ自動車リサイクルをPR

日本ELVリサイクル機構が主催する「自動車リサイクル環境フォーラム in 北海道」が6月6、7日に北海道札幌市の札幌コンベンションセンターで開かれました。洞爺湖サミットの開催に合わせ、自動車リサイクル事業者の立場で地球環境保全を訴えることを目的に開催したもので、ELV機構に加盟するNGP協同組合員をはじめとした自動車リサイクル関係者が全国から集まりました。

フォーラム初日は経済産業省・高橋政義自

動車リサイクル室長の基調講演、テーマ別分科会ごとの討論集会が開かれました。二日目は環境省・松澤裕自動車リサイクル対策室長、郡篤孝自動車リサイクル促進センター理事長の講演、映画「不都合な真実」などの上映会、締めくくりのパネルディスカッションと盛り沢山の内容でした。

テーマ別分科会では「自動車リサイクル部品普及とCO₂削減」、「使用済車流通の構造変化と業界の対応」といった解体事業者の身近なテーマとともに、自動車メーカーの担当者を変えての「リサイクルしやすい車両設計の展望」、「自動車リサイクル技術と研修制度構築について」の4テーマで行われました。リサイクル部品や使用済車流通という身近なテーマの分科会は多数の参加者が詰めかけ、会場となった会議室に入りきれないほどの



自動車リサイクル部品など分科会は4テーマ。翌日のパネルディスカッションで各分科会の討議内容が紹介された

盛況ぶりでした。

またパネルディスカッションではパネラーとして一般ユーザーの代表者も参加し、適正処理による資源リサイクルの推進と同時にリサイクル部品によるリユース、廃棄物削減の取り組みについての認識を深めました。一般市民を巻き込んだ大規模な集会は自動車解体業界として初めてのことで、環境が大きなテーマとなった洞爺湖サミット直前に、自動車リサイクルへの関心を高める格好のPRの場となりました。



フォーラムの幕開けは経産省の高橋政義自動車リサイクル室長の記念講演。急きょ予備椅子が運び込まれるほど会場は熱気にあふれた

NGP 今月のCO₂削減量

NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO₂の削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。

● ● NGP 平成20年5月： **6,780,487kg** （全12団体計：13,461,619kg）
1月からの累計： **35,345,174kg** （全12団体計：66,551,542kg）



NGP協同組合各委員長に聞く 第5回 中村俊康商品管理委員長

品質向上と安定供給へのたゆまぬ努力 お客様から選ばれ続けるブランド力を目指す 商品定義には現場の声をしっかり反映

「NGPブランド」品質形成を支えているのが、商品管理委員会です。内部に対しては強面ですが、それもお客様第一を考えて強い信頼関係を築いていきたいからです。時代環境の変化に応じた品質向上策に常に頭を悩ませ、努力を続けています。

—ブランドイメージ向上を今期の課題にあげています

「NGPのブランドは、いまでは修理業界にしっかり浸透したと思っています。しかし、それに甘んじることなく、NGPのリサイクル部品を選んでいただける商品づくりを進めたいと考えています。それに努めることが、お客様第一をはじめとするNGP三大信条の本分であると思います」

—ブランド力向上のために取り組んできたことはありますか

「今年の5月に商品定義を見直し、分かりやすいものにしました。新しい車が毎年出てくるので、3年に1回程度の割合で見直しをしなければ、現状の商品定義と適合しな

くなります。定期的に見直し作業に取り組む態勢を作ることが今後の課題であると感じています。システム委員会と連携しながら、フロントや生産業務の現場の声を取り入れて商品定義に反映させることが必要です。実際に取り組んでいる人たちの声を大切にして商品定義を整備する態勢を作ろうと考えています」

—クレームの発生状況はどうですか

「クレームの発生は波があります。たまたまある月にクレーム発生率が上昇しても、翌月は元に戻るケースが多く、継続してクレームを多発する組合員はいません。組合員が自覚を持って自社でしっかりした管理をしていることと、各支部の理事が目光らせてくれているからだと思っています。これまで重大クレームが発生していないことは評価できますが、そもそもクレーム発生はあってはならないことです。可能な限りゼロに近づける努力を継続します」

—品質と同時に安定供給も課題です

「品質の向上とともに供給力を高めること

も重要です。ポイントは使用済自動車の仕入れですが、現状では仕入れ車両の低年式化が著しく進んでいます。しかし嘆いてばかりはいられません。経営のバランスを考えながら仕入れを強化して、リサイクル部品の供給力を高めることも必要になると考えています。さらに新しい付加価値をつけた商品についても計画し、お客様へのサービスを向上します」



中村俊康（なかむら・としやす）
1964年生まれ 牡羊座 A型 趣味・旅行

クリーンディーゼル普及推進戦略まとまる イメージ払拭?自動車取得税軽減措置でバックアップ



注目されるクリーンディーゼル乗用車。地球温暖化のために日本でも普及が求められる

政府の「クリーンディーゼル普及推進戦略」がまとまりました。洞爺湖サミットでのPRを手始めにディーゼル車のイメージ改善に向けたPRが本格化する見通しです。このほか、初期需要の創出や主に北海道を舞台に地域と連携した普及促進策を取り進むことなどを計画しています。

をクリアするため、エンジン燃焼制御を高度化し、さらに後処理装置で排ガス浄化を徹底しているクリーンディーゼル車はコストアップになります。これに対する支援策が自動車取得税の軽減です。また低公害車に対するアクションプランを改編してクリーンディーゼル車を位置づけ、政府・自治体によ

る率先導入を進めることにしています。北海道は率先導入の重要な舞台のひとつです。クリーンディーゼル車は燃費性能が売りのひとつで、走ることでその特性が活かされるため、北海道では好条件となります。公共調達とともにクリーンディーゼル車を積極導入した企業の表彰、クリーンディーゼルの販売普及に貢献した販売店などの表彰を計画しているほか、レンタカーで導入し観光客に乗ってもらいクリーンディーゼル車を体感、悪いイメージの払拭を図ります。プロモーション活動では分かりやすいキャッチフレーズでクリーンディーゼル車のイメージ改善を図るそうです。日産自動車は9月にクリーンディーゼル乗用車の販売を始めます。このタイミングで、関係者が連携してディーゼル車のイメージ改善イベントの開催を計画しています。

第16回初級営業マン研修会開催

お客様第一の原点に立ち明日への活力を注入

5月25日から27日までの3日間、東京都江東区夢の島のBumB東京スポーツ文化館で第16回初級営業マン研修会が開かれました。全国から17人が参加、グループ討議やロールプレイングを通じて「会社の顔」になるための研修訓練をしました。受講者は「未入庫のお客様5軒に毎月NGPニュースを手渡しで配り、新規顧客を獲得します」(永田プロダクト・斉藤昇さん)などと顧客開拓へ向けた決意を表明しています。

短い期間ですが、「営業マンは部品の受注や使用済車の仕入だけでなく、お客様に情報を与え自分も情報をもたらってくる。そこから信頼関係が生まれ、次につながるのだと

思いました」(マルトシ青木・瀧本貴幸さん)、「営業マンは誠実であればいいと思っていましたが、岩井委員長から『心と技術』この二つがないと駄目です』と指摘され、これまでの営業活動の間違いに気付きました」(岡崎車輛部品、秦努さん)など、基本から実践までさまざまな気づきの機会を得られたようです。

感想文の最後に「これだけは書いておきたい」とライラック車輛の伊藤俊也さん、「このような企画をしていただいた委員会の皆様、私を送り出してくれた社長、私が研修している間、一生懸命働いてくださった社員の皆さんに感謝しています」と締めくくって

ます。感謝の気持ちはお客様への誠実な対応につながります。



営業はどうあるべきかを考え、技術を身につける。真剣さが伝わってくる



3日間の研修を終えた達成感とともに、全員の表情に新たな決意がにじみでる

洞爺湖サミット記念環境展に北海道支部が出展

市民にCO2を減らせるリサイクル部品をPR



環境サミットで燃え上がった北海道。環境総合展で自動車リサイクルとリサイクル部品を周知した

6月19日から21日まで北海道札幌市の札幌ドームで開かれた「北海道洞爺湖サミット

記念環境総合展2008」にNGP協同組合北海道支部が出展しました。上場企業からNPO法人、バイオマスや多様なエコ生活商品まで一堂に会した総合展で、自動車リサイクル部品の分野ではNGP協同組合だけが出展し、CO2削減効果がある自動車リサイクル部品をはじめとするNGP協同組合の取り組みを市民に訴えました。

屋外の展示でしたが、シャトルバスの発着場に近く、Aプレスを真ん中に据えたブースは大盛況。ブースには支部メンバーが3日間交代で詰め、環境クイズへの挑戦などでNGP協同組合の取り組みを理解してもらいました。「これほど多くお客様が来てくれるとは思わなかった。我々の活動を理解してもらおう良い機会になった」と、北海道支部の上田秀徳支部長も手ごたえに納得していました。

プレゼント 第3回「ベース車を当てようクイズ」

ピックアップトラックのベース車は何でしょう？

正解者の中から抽選で3名様に、QUOカード(5千円分)をプレゼント!!



ヒント 1. 往年のスポーティーカーです 2. 「レクサス」に引き継がれました 3. このエンブレムはノーヒント

ベース車が何かが分かった方は、下記の応募用紙に回答と必要事項を記入し、FAXで「ベース車を当てようクイズ」係までお送りください。応募締切は2008年8月25日到着までとさせていただきます。正解と当選者発表はNGPニュース9月号で。

協力：日本自動車大学の皆さん

■下記の応募用紙に回答と必要事項を記入しFAXをお送りください。FAX番号はお間違のないようお願いいたします。

「ベース車を当てようクイズ」係		応募用FAX番号	03-5475-1209		回答			
お名前	職業	年齢	歳	性別	男・女			
〒 - 〇〇〇〇	ご住所	電話番号	()	-				
特集で取り上げてもらいたいテーマ								

※ご記入いただいた内容は賞品の抽選・通知・発送のほか、今後の本サービスの参考とするためにのみ使用させていただきます。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp

(株)NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201